

編集後記 3つの顔

いよいよ大阪・関西万博（万国博覧会）が開幕しました。
僕も最低でも2回は行きたいと楽しみにしています。(^^)

世界の国から
こんにちは

アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



前回大阪で開催された万博では「月の石」が人気を博しましたが、万博はその時代を映す鏡です。
1900年のパリ万博で、日本が展示したのは意外な物でした。

それは仏像や正倉院の美術品など日本のいにしえのお宝。日本には昔から素晴らしい文化がある
ということを欧米列強に認めさせたい、その時代の日本の事情があったのです。

そこで日本の美術品の元祖として紹介された最古の物は、古墳時代（3世紀～7世紀頃）の「埴輪」でした。

それから半世紀以上を経た1950年代。それまでの日本の美術に関する認識を大きく変える芸術家が
現れます。後の大阪万博において「太陽の塔」を制作することになる「岡本太郎」です。

18歳でパリに渡り永住する決意も持っていたという太郎は、ピカソの抽象画に影響を受け純粋抽象
の道を進んでいましたが、偶然、東京国立博物館に陳列されていた縄文土器を目にして衝撃を受けます。

「激しく追いかぶさり重なり合って、隆起し、下降し、旋廻する隆線紋。これでもかこれでもかと
執拗に迫る緊張感。しかも純粋に透った神経の鋭さ。常々芸術の本質として超自然的激越を主張する
私でさえ、思わず叫びたくなる凄みである」。(岩手県立博物館だより 2006. 12 より)

考古学者が「火焰型土器」と呼ぶ縄文土器のことです。

太郎以降、古墳時代を遥か何千年も遡る、日本の縄文時代の文化が世界で評価されるように
なったのです。2015年のロンドンで開催されたサザビーズのオークションで出品された日本の
縄文時代の土偶が約100ポンド（当時のレートで約2億円）で落札されたこともありました。
社会の価値観は、ひょんなことから簡単に大きく変わるものです。(@o@)



太郎は、炎ではなく、
「深海」だと言っ
ていたそうです



フジテレビの問題が今なお報道されています。そのキッカケとなったのは元SMA Pの中居氏のトラブル。
中居氏にとっては示談が成立し終わったこと、もう「過去」のこと・・・のはずでした。

そしてそれは、昨今の退職した社員が起こしている事態を見ると、まんざら他人事とはいえないように感じます。
過去に受けたハラスメント被害を、「#私が退職した本当の理由」といったハッシュタグをつけてSNS等で
発信し、職場や仕事上の被害を年月を経てから告白する「リベンジ退職」の動きが増えつつあるからです。(+_+)

良くも悪くも家族的経営が持ち味の中小企業の中には、業界の風習、文化、うちの社風だからと考えて、
古い体質に肯定的な職場もあるように思います。でもその価値観がこれから先も通用するでしょうか。
後になって掘り起こされて、その時の価値観や倫理観で問題視されることも十分ありうるのです。
掘り起こされるのは、土器や土偶だけではなく、



ガーデン・ターク



ドイツ帝国の初代宰相を務め「鉄血宰相」の異名を持つビスマルクの有名な言葉に、
「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とあります。

ここでいう「歴史」とは実は他人の失敗のこと。つまり、愚者は自分で失敗して初めて学ぶが、それでは経験
したことからでしか学べない。それに対し、他の人の失敗を見て「自分もそうなることがあるかもしれない」と
気を引き締め、そうならないために未来に向けて策を練るのが賢者という意味なのです。(^-)-☆

縄文時代の巨大な土偶に見えなくもない太陽の塔は、大阪万博が終了して取り壊されることになって
いましたが、一般人の署名で保存されることになり、今では大阪の「顔」になりました。(^^)

太郎が太陽の塔に加えた顔は3つあります。背中に黒く描かれた顔が過去、お腹？にある顔が現在、
頂上で金色に輝く顔が未来です。過去は現在に、そして現在は未来へとつながっています。
そしてその3つの顔は、僕たちの誰にでもあります。

自分たちが未来を笑顔で迎えるために、今歴史から学ぶことも必要なことだと思うのです。



そこかい！

アヴニール労務事務所

未来は変えられる！

avenir